

商業施設の基本的なサインを 全てデジタルサイネージに刷新した。



▲ JR仙台駅西口正面からのペDESTリアンデッキと直結する「仙台PARCO2」。

WEBサイトを更新すれば サイネージ情報も自動的に更新

2016年7月1日、JR仙台駅前(仙台市青葉区)に「仙台PARCO2」がグランドオープン。“オトナ 考える PARCO。”をコンセプトとし、“オトナ”がメインターゲットの新しいタイプのPARCOとなっている。

同店では、デジタルサイネージソフトウェア「DISE」を活用したシステムを計31台導

入。館内サインのデジタル化をテーマに、フロアマップや飲食店舗一覧、全フロアのテナント一覧といった商業施設の基本的なサインを、全てデジタルサイネージとした。

フロアマップのデジタル化はPARCO社初の取り組み。館内サインのデジタル化によって、フロアマップや販促ポスターなどの更新時における館内案内の貼り替え作業をなくすことで、スタッフの業務効率化を図った。

今回導入されたデジタルサイネージは、WEBサイトの更新用を使用している既存のCMSで、WEBサイトの店舗名や画像、更に各テナント用のショップブログも通常通り更新するだけで、館内のサイネージ情報も自動連携し更新される仕組みだ。

来店客が接することの多い館内サインをデジタル化することによって、必然的にデジタルサイネージへの注目度および活用度を高め、さらにWEBサイト用CMSと連携することによって業務効率化へと繋げる。デジタルならではの機能として、WEBサイトやアプリのメインコンテンツと連携しコンテンツを充実させ、デジタルサイネージを多様

な訴求ツールにすることを視事に果たしている良い例ではないだろうか。

- トータルプランニング
 (株)バルコ ストアデザイン部
- プロジェクトマネージャー
 (株)バルコ・シティ
- システム設計・構築・設置・保守
 (株)ファン・ファクトリー



▲ エントランスに設置されたデジタルサイネージ。46インチの液晶ディスプレイ(解像度FHD、輝度700cd/m²)2面。



▲ レストランフロアに設置された飲食店舗一覧。WEBサイトの店舗発信情報を連携表示するなど、来店きっかけを創出する機能としても活用している。70インチの液晶ディスプレイ(解像度FHD、輝度700cd/m²)1面。



▲ エスカレーター横のデジタルサイネージ。32インチの液晶ディスプレイ(解像度FHD、輝度450cd/m²)1面。



「仙台PARCO2」では、館内サインのデジタル化を推進し、フロアマップや飲食店舗一覧、全フロアのテナント一覧といった商業施設の基本的なサインに、デジタルサイネージを採用。新聞部(ランチ、ディナー、ディナー)によって各飲食店のメニュー写真を実況させるほか、季節情報、さらに午前・午後・夜と、時間帯に応じた演出をサイネージで行うなど、タイムリーな情報を提供している。写真は、エスカレーター横のデジタルサイネージ(46インチ、解像度FHD、輝度500cd/m²)。